

ブレインバンクに献体をご了承頂いたご家族皆様へ  
(研究に関する情報)

当院ならびに関連施設では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、研究への協力を希望されない場合は、下記に記載されている研究の担当者までお知らせください。なお、研究への協力を希望されない場合は、いつでも拒否ができ、そのために診療上で不利益を被ることはありません。

研究課題名	中枢神経疾患マーカーとしての”脳型”糖タンパク質の研究 (福祉村病院倫理委員会承認番号#397)
当院の研究責任者	福祉村病院長寿医学研究所 研究員 赤津 裕泰 (名古屋市立大学医学研究科 教授)
他の研究機関および各施設の研究責任者	福島県立医科大学医学部生化学講座 教授 橋本康弘
本研究の目的	<p>中枢神経疾患の診断に用いられる MRI, CT の高性能化に伴って、微小な腫瘍や小出血の診断が正確に行われるようになった。すなわち、形態の変化を伴う疾患の診断は、極めて進歩している。一方、形態の変化を伴わず、機能変化を引き起こす疾患の診断は難しい。例えばアルツハイマー病のような神経変性疾患では、分子レベルの病変が長期にわたって引き起こされるが、この間の形態的な変化はほとんど見られない。画像上の形態変化が観察されるのは、病変が進行し大量の神経細胞死が起こった後である。このような病終期に治療を開始しても神経細胞死からの回復は望めない。従って、形態的な変化が起こる以前の機能変化を検出して早期診断し、早期治療を行うことが重要である。すなわち、神経機能を分子レベルで検出するためのバイオマーカーの開発が必要である。</p> <p>我々は、中枢神経系の細胞が分泌するタンパク質はユニークな(脳型)糖鎖を持つことを見出した。すなわち、脳型糖鎖を持つタンパク質は神経系細胞の機能変化のバイオマーカーになりうることを示した。本研究では、脳型糖タンパク質の体液(特に脳脊髄液)における変化を調べ、形態学的な診断が難しい疾患を中心に、新たな診断マーカーの探索を目的とする。新たな診断マーカーが見出され、早期診断に応用されれば、早期治療による治癒が期待される。</p>
対象者該当期間	福祉村ブレインバンクに保管されている全症例。
研究の方法	病理解剖例の脳組織を使用して脳型糖タンパク質の分析を行う。生化学的解析
個人情報の取扱い	長寿医学研究所個人情報管理者によって適切に管理される。
お問い合わせ先	名古屋市立大学大学院 医学研究科 地域医療教育学(秘書宛) 〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1

	TEL 052-853-8527 (内線 8527)
備考	